

## 1. 二次的自然の重要性

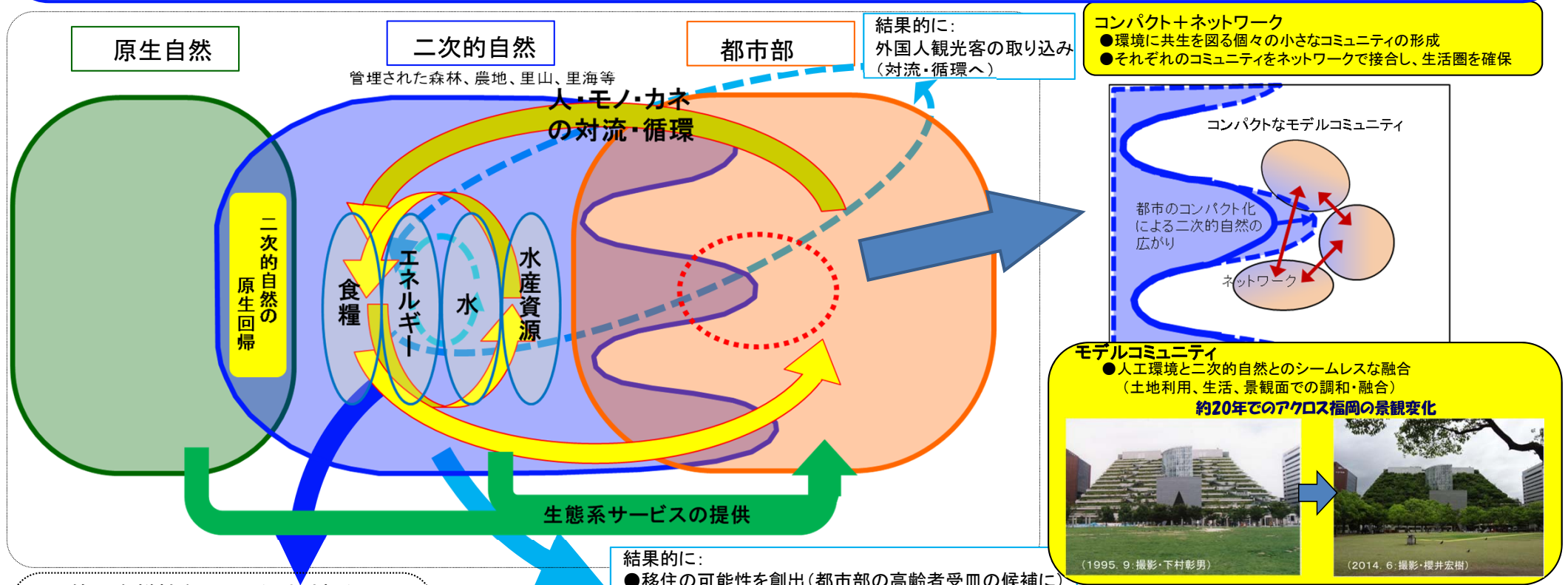
- ・人間は自然から様々な生態系サービスを受取るが、その重要な供給源が二次的自然。二次的自然の中には食料、エネルギー、水、水産資源等の戦略物質の多くが眠っている。
- ・これまでは、農山漁村のコミュニティなどにより二次的自然が維持されてきたが、人口減少などにより、農山漁村だけでは自然の維持は困難。

## 2. 単なる交流ではなく、新しい対流・循環構造の構築

- ・田園回帰に一定のニーズが高まる中、都市部は災害リスクや食料自給率向上、子育て等様々な課題があるが、農山漁村の活用が課題解決の大きな鍵。
- ・二次的自然の維持とさらなる有効活用には、これまでの単なる都市と農山漁村の交流ではなく、第2住民として農山漁村のコミュニティに深く関わりを持つことや、都市住民が参画型農業に携わること等によって、都市・農山漁村間での滞在・居住に関する新たな人的対流・循環、あるいは流入者の食料やエネルギー等の地産地消への貢献にもとづく新たな経済循環等、都市と農山漁村における「人・モノ・カネ」の新たな対流・循環構造を生み出すことが重要。

## 3. 都市と二次的自然とのシームレスな融合

- ・二次的自然の広がる中、都市部と二次的自然がよりシームレスになることで、上質な都市を構築することが可能。



**里山等の多様性を活かした地域振興**  
二次的自然であっても地域によって全く異なる様相 (個性・アイデンティティ) をもち、その多様性を活かすことが地域の振興につながる。



### 【多様性の例 (景観)】

杉を例にすると、奈良県吉野では、江戸時代より酒樽等の生産を目的としたため、年齢幅が狭く、無節、色目の良い吉野杉が生産されてきた。一方、京都市では、茶の湯文化や数寄屋建築の広まりとともに、一般の木材と異なるその独特で光沢のある木肌から、見せる建築用材として北山杉が生産されてきた。これらの要因から、同じ杉林の景観を比べても大きく異なり、多様性を持っている。



奈良県 吉野杉の生育地



京都市 北山杉の生育地